

第87号【2015/1/1 発行】

発行元：昭和大学横浜市北部病院

●巻頭言

『新年を迎えて』

病院長 世良田 和幸

- 医師の配属・異動・退職
- 診療統計
- TOPICS
- コメディカルリレー紹介
- 北部イベント
- 患者さんへのお知らせ



本年もよろしくお願ひいたします

巻頭言

『新年を迎えて』



病院長

世良田 和幸

皆様、新年明けましておめでとうございます。

平成27年も穏やかに新年を迎えることができました。皆様の昨年1年間はどんな年だったのでしょうか？様々な反省も含めて、今年の抱負はどんなことを考えていますか？

本年の皆様の益々のご健勝とご活躍を心からお祈りする次第です。

私も、昨年4月長年院長職にあった田口進先生からその職を引き継ぎ、手探り状態の中でここまできました。職員の皆様にはいろいろとご心配をおかけしたかも知れませんが、なんとか頑張って来ることができました。これもひとえに、当院の医師や看護師を含め、多くの職員の皆様のご協力のおかげと大変感謝しています。

さて、昭和大学横浜市北部病院も昨年は様々な試練の年でした。3月には、昭和大学江東豊洲病院の開院に向けて、当院から消化器センターをはじめとして約30名の医師が異動となり、外来患者数や救急患者数の減少も伴い、年度初めは当初の予算を下回って病院の改修や機器の購入が困難になるかもしれないと言われた時期もありました。しかし、年度の後半ではなんとか前年の収入に近づくことができました。また、外来患者数の減少に加え、病棟稼働率の減少などもありましたが、荒木田事務部長をはじめとする管理課スタッフ、医師や看護師、そして他のコメディカルのスタッフなどが一生懸命頑張ってきた結果だと思います。有り難うございました。

今年は、臨床検査室の南棟への移動に伴う手術室の改修や電子カルテの更新、人間ドックのことなど、機器の更新を含めていくつかの課題があります。この病院を訪れる患者の皆様に如何に信頼され、愛される病院にするか、また職場の環境を如何に安心、快適なものにできるかを念頭に置き、一つの節目とも言える15年目を乗り切っていくこうと考えています。

患者さんに満足して頂くためには、まず職員の満足度の向上が大前提です。昨年の医療安全のアンケートでも様々な問題が浮き彫りになってきましたが、それを少しでも払拭できるよう皆さんと一緒に考え、努力していくこうではありませんか。

医師の配属・異動・退職

新規配属医師

2014年12月～2015年1月

【配置転換】

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| ・木田 裕之 (消化器センター ⇒ 救急センター) | ・島田 翔士 (救急センター ⇒ 消化器センター) |
| ・齋藤 重男 (心臓血管カテ-ル室 ⇒ 救急センター) | ・薬師寺 忠幸 (救急センター ⇒ 心臓血管カテ-ル室) |

【学外研修等戻り】

- | | | |
|------------|-------------|------------------|
| ・加藤 憲 (内科) | ・玉置 秀司 (外科) | ・矢川 裕介 (消化器センター) |
|------------|-------------|------------------|

異動 退職医師

2014年12月～2015年1月

【学外研修】

- | | |
|------------------|------------------|
| ・石垣 智之 (消化器センター) | ・加藤 一樹 (消化器センター) |
|------------------|------------------|

【退職】

- | | | |
|-------------|------------------|---------------------|
| ・井上 浩太 (眼科) | ・工藤 孝毅 (消化器センター) | ・及川 裕将 (消化器センター) |
| ・砂川 優 (内科) | ・和田 陽子 (消化器センター) | ・黄 鼎文 (女性骨盤底再建センター) |

診療統計

2014年10月～11月統計データ()内は1日平均

診療実日数 10月(入院:31日・外来:26日)、11月(入院:30日・外来:22日)

	外来患者数	入院患者数	救急搬送数	手術件数
10月	30,723人(1,182.7人)	16,700人(538.7人)	334件(11.1件)	682件(31.0件)
11月	27,083人(1,231.0人)	16,507人(550.2人)	373件(12.4件)	566件(29.8件)

TOPICS

東山田中学校の生徒が職業体験をおこないました

平成26年11月26日(水)から28日(金)、横浜市立東山田中学校の2年生4名が当院で職業体験をおこないました。

病棟や検査室、受付等、院内の様々な業務を実際に体験していただきました。写真は毎年職業体験の中で行っている手術室見学の様子です。



都筑区民まつりに参加しました

11月3日(祝)都筑区民まつりに北部病院も参加しました。今年は感染制御チームも参加し、地域住民の方に「正しい手指消毒方法」と「マスク着用方法」の実技指導を行いました。当日はお子様からご高齢の方まで多くの方にお越し頂き、「マスクに裏表があるの?」「顎の下までのばして付けるなんて知らなかった。」という反響と、「勉強になった。来て良かった。」という沢山の嬉しい感想も頂きました。

12月からはインフルエンザやノロウイルスの本格的な流行時期に入りました。いずれも手洗いや手指消毒、マスク着用が予防の基本です。実技指導させて頂いた内容が少しでもお役に立てばと思います。



感染管理室 看護師 日高絵美

患者さんへのお知らせ・お願い

最新医療機器のご紹介

2014年9月、当院に最新鋭のマルチスライスCT装置 AquilionONEが導入されました。装置の特徴と有効な検査についてご紹介致します。

最新機器の特徴

特徴その1:被ばく線量の低減が可能になりました。

特徴その2:1回転での撮影範囲が広くなりました。

※従来のCTでは3.2cmしか撮影できません

でしたが、導入したCT装置では16cmの幅で撮影が可能となりました。(図1)



特徴その3:短時間の撮影が可能です。

※1対の収集システムでも1回転のスキャン時間が最短0.275秒になりました。

特徴その4:鮮明な画像出力が可能です。

※短時間でのスキャンを生かして、より良い心臓CT検査や脳CTA検査(脳の血管の描出)が可能になりました。特に心臓CT検査での不整脈発生時には威力を発揮します。(図2)

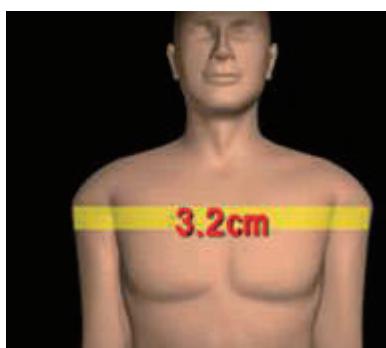
特徴その5:臓器の機能診断に寄与すると期待されています。

特徴その6:整形外科領域において、従来のCT装置に比べ楽な体位での検査が可能です。

(図3)

画像イメージ

図1 従来のX線CT装置



導入したX線CT装置

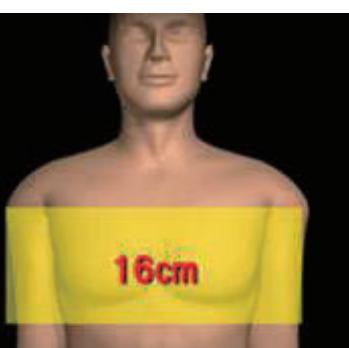


図2 心臓の血管画像

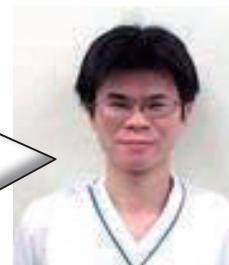


図3 手関節三次元画像



放射線画像検査で受ける被ばく線量の占める割合は、X線CT検査が34%となっています。そのため、私たち「診療放射線技師」は医師が診断できるように適切な画像を提供するとともに、患者さんへの線量低減に努め、患者さんにとって安心で安全な医療の提供をしています。

放射線診断機器の
スペシャリスト



診療放射線技師:佐々木武弘

患者さんへのお知らせ・お願ひ

総合相談センター通信 vol.20 《医療安全推進週間・AEDについて》

今回の総合相談センター通信では平成26年11月25日～29日に実施された「医療安全推進週間のイベントについて」お知らせいたします。北部病院の今回の医療安全推進週間では、病院職員が考えた安全を守るために、医療者と患者さんのパートナーシップをテーマに考えた標語の投票、AEDの実演、医療安全に関するアンケートを実施しました。

AED（自動体外式除細動器）とは？

AEDとは、**A**:Automated(自動化された)、

E:External(体外式の)、

D:Defibrillator(除細動器)です。

突然心臓が正常に拍動できなくなった心停止状態の心臓に対して、電気ショックを行い、心臓を正常なリズムに戻すための医療機器です。突然心停止の最も一般的な原因である心室細動(VF)・心室頻拍(VT)の際に使用されます。突然心停止は事前の徵候や症状なく突然発生するケースが多く、いつどこで発生するか分からぬる恐ろしい症状です。したがって、**突然心停止の発症後、直ちに心肺蘇生と除細動電気ショックを実施することが非常に重要です。**

いつも歩いている散歩道、通勤路の「どこに」AEDが置いてあるかご存知ですか？

医療安全推進週間のイベント

【初診受付前にてAEDの実演風景】



普段見る機会が少ない、AEDの実演を行いました。

患者さんからは「良い機会になりました」と好評でした。

【医療安全に関する標語を掲示し、

アンケートのご協力をいただきました】



～医療安全推進週間とは～

「11月25日いい医療に向かってGO」厚生労働省により、

“患者の安全を守るための共同行動”的一環として医療機関における取り組みの推進を図り、国民の理解や認識を深めることを目的として設けられ、毎年11月25日は医療安全に関する周知啓発を目的に病院内で様々な取り組みを実施しています。



コメディカルリレー紹介 vol.5 《臨床病理検査室(生体検査)》

このページでは、病院内の部署・職種を順番に紹介しています。

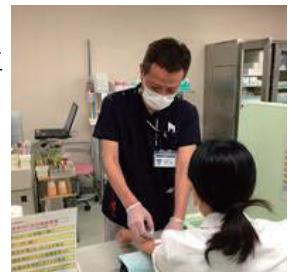
2階の検査室は主に採血室、生理機能検査室、超音波検査室に分かれています。

採血室は280受付、生理機能と超音波は270受付を窓口としています。

窓口では、患者さんご本人確認のためにお名前とお誕生日をおっしゃっていただいています。

●採血室には1日300~500人程の外来患者さんが来室します。採血は、国家資格を有する「臨床検査技師」が担当しています。血管に針を刺して血液（静脈血）を採取する侵襲的な行為ですので、「安全に」「間違いなく」行うことをモットーに十分な管理のもと細心の注意を払い、曜日と時間帯に応じて1~7名のシフトを組み、以下の業務を行っています。

- ・採血；検査に必要な血液を各種採血管に採取し、採血に伴う合併症が発生した場合には看護師と協力し、その対応に当たります
- ・採尿；カップを手渡し、採尿方法を患者さんに説明します
- ・容器説明；喀痰、便等の採取容器を手渡し、採取方法と提出方法を患者さんに説明します

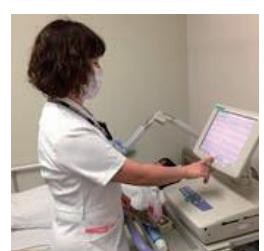


■生理機能検査室では、1日100~200人の患者さんに対して臨床検査技師が生理的機能測定を行います。主な検査の内容と検査時間は下記のとおりです。

- ・心電図（約10分）；心臓の活動電位を記録し心筋の状態や不整脈を調べます
- ・ホルタ一心電図（装着約20分）；機械を装着し24時間の自由行動下の心電図を記録します
- ・運動負荷心電図（約30分）；運動中の心電図を記録し、狭心症や運動耐容能の評価をします
- ・血圧脈波（約15分）；腕と足首の血圧を同時に記録し、閉塞性動脈硬化症の有無を調べます
- ・聴力（約15~30分）；気導・骨導の可聴閾値を測定し難聴の分類やめまいの原因を調べます
- ・呼吸機能（約15~60分）；肺活量、努力性肺活量などを測定し換気障害の分類を調べます
- ・脳波（約60分）；頭皮に電極を着け脳の活動電位を記録し、てんかんの有無などを調べます
- ・末梢神経伝導速度（約30~90分）；神経を電気刺激しその反応を筋肉および神経上から記録して、末梢神経機能を調べます

- ・針筋電図（約30分）；筋肉に針電極を刺入し、筋肉内の活動電位を記録します（医師施行）

他に皮膚灌流圧、24時間血圧、平衡機能、簡易型睡眠時無呼吸などの検査を行っています。



◆超音波検査室では、1日60~80人の検査を臨床検査技師と医師で行っています。

超音波は非侵襲的な検査であり、繰り返し検査が可能です。主な検査領域は、心臓、腹部（肝臓・胆嚢・脾臓・腎臓）、表在（乳腺・甲状腺）、末梢血管（頸動脈）等です。

腹部の検査は食事制限がありますが、他の領域の検査は特に制限はありません。臓器全体のダメージ（脂肪肝等）を調べたり、腫瘍（乳がん等）を見つけ出したりします。検査時間は領域により異なりますが、20~40分程度です。通常は予約検査ですが、緊急検査にも対応しています。



患者さん・医療機関へのお知らせ

緩和ケア病棟のご案内

皆さん「緩和ケア病棟」ってどういうイメージをお持ちでしょうか？

「最期に行くところである」「ホスピスのように終生暮らしていくような施設である」と思っている方も、まだまだ多いようです。そこで今回は患者さんに緩和ケアを身近に感じ、もっとより知つていただくために、緩和ケア診療科長の岡本健一郎先生に色々聞いてみたいと思います。

教えて
○○先生！



がんによる苦痛症状を
緩和するために
どんどんご利用ください



緩和医療科 教授
岡本 健一郎先生
痛みの専門家

Q1. 緩和ケアって何ですか？

がん患者さんは、痛み、だるさ、息苦しさなどのさまざまな苦痛症状を経験します。そういった苦痛症状をやわらげるためのケアです。

Q2. 緩和ケア病棟ってどんなところですか？

北部病院の緩和ケア病棟は「がん」によって引き起こされている苦痛症状のコントロールがついていない場合に利用してもらい、コントロールできたら退院を目指す病棟です。

Q3. 緩和ケア病棟はどういった環境なんですか？

緩和ケア病棟は25床とも全室個室です。全室から緑豊かな庭が望め、患者さん・ご家族が快適でリラックスできる環境になっています。各病室からベッドごとテラスに出ることができ、自然の風を感じることもできます。一般的な浴室のほかに患者さんが寝たままの状態で入ることが出来る機械浴室があり、なかなかお風呂には入れなかった患者さんに喜ばれています。

病棟にはデイルーム、多目的ヒーリングルーム、簡単な調理のできるキッチン、洗濯室があり、日常生活を快適に過ごす工夫がされています。季節を感じられるようにディスプレイされたデイルームでレクリエーションなども催しています。面会時間に制限はなく、また、ご家族はいつでも宿泊できます。ご家族がゆっくりできるように家族室を用意しています。



【テラスから見た風景】



【お部屋の環境】



【ヒーリングルーム】

Q4. 「がん」で通院していますが、緩和ケア病棟に入院できますか？

全ての方が入院できるわけではありません。以下の適応基準に当てはまる方かどうかを判定するために「緩和ケア病棟入院判定外来」を受診していただき(ご家族のみでも可能)判定します。当院の緩和ケア病棟の入院対象となる方は以下の条件を全て満たしている患者さんです。

- ①悪性新生物(がん)の患者さん。
- ②がん治療を終了もしくは中断している患者さん。
- ③がんによって引き起こされている苦痛症状があり、症状のコントロールがついていない患者さん。
- ④本人やご家族が緩和ケア病棟への入院を希望している患者さん。

※具体的には下記の状況では、当院緩和ケア病棟へのご入院をお受けできません。

- ・透析治療・人工呼吸器治療が必要な患者さん
- ・手術療法・がん化学療法・放射線療法・免疫療法など悪性腫瘍縮小を目的とした治療を継続することが必要な患者さん



Q5. 患者に「がん告知」していないのですが入院できますか？

病名を知っていることが望ましいですが、必ずしも告知が必要ではありません。

Q6. 差額室料がとても高額なのですが…。

全 25 床のうち半分は無料部屋ですが、多くの方が無料部屋を希望されるので、まずは有料部屋から入院していただくことになります。ただし、ご本人・ご家族の経済状態を十分に考慮して対応いたしますので、遠慮なくご相談ください。

Q7. 緩和ケア病棟は入院待ちが長いと聞いていますが…。

その時の情況で大幅に異なります。申し込みから入院まで通常 1 ヶ月程度ですが、1 週間程度で入院できる場合もあります。

Q8. 手続きの進め方はどうすれば良いですか？

緩和ケア病棟入院判定外来(紹介予約制)を受診する必要があります。月曜日、水曜日、金曜日の午後 2 時～(家族のみの受診も可能です。)

■当院へ通院中の方

⇒主治医にお申込みください。

■他院に通院中(入院中)

⇒医療機関を通じて地域医療連携室へお申込みください。

緩和ケア病棟では季節毎のイベントに合せて
看護師等の医療スタッフが
患者さん・家族とのレクリエー
ションを実施しています。



TOPICS

地域医療連携フォーラムを開催しました

地域医療機関等と当院との相互理解を深め、“顔の見える Face to Face の関係”を築くことを目的として、「第3回昭和大学横浜市北部病院地域医療連携フォーラム」を11月27日(木)に「MELONDIA あざみ野」で開催しました。

プログラムは、講演会と懇親会の二部構成で、講演会では、まず、当院耳鼻咽喉科の門倉義幸准教授から「頭頸部がんについて」という演題で、がん治療のお話に加え、喫煙による健康被害に関して講演いただくとともに、放射線科の馳澤憲二教授からは「北部病院の放射線治療について～最新治療の紹介～」と演題で、当院放射線治療における工夫や、更新したリニアックに関して講演いただき、当院の診療について、地域医療機関の方々にお示しすることができました。

次に、地域医療機関の小川メディカルクリニック小川憲章院長から「地域における在宅医療」という演題で、都筑区における在宅医療への取り組みについて講演いただき、当院スタッフの在宅医療に関する理解が深まりました。

懇親会は、診療科別のテーブルに別れて立食形式により開催し、各テーブルとも、たいへん賑やかに会話が弾んでいました。

参加者は、地域医療機関等65名、当院関係者120名で、懇親会などを通し“顔の見える Face to Face の関係”的構築ができ、紹介・逆紹介をはじめとする地域医療連携の推進につながるイベントとなりました。

今後も患者さんのために、地域医療機関と当院でさらに緊密な地域医療連携を行っていきたいと思います。



門倉義幸氏



馳澤憲二氏



小川憲章氏

耳鼻咽喉科 門倉准教授の講演会が新聞に掲載されました

現在、年間15回程度の無償講演活動を行っています。その内容は「タバコの正体」の他、「大気汚染・PM2.5」「のどの癌」「食事と運動」に関する「医師も知らない不都合な真実」です。講演先は、医療機関、パナソニック、docomo サポートセンター等の企業、レストラン、料理教室、代々木公園ベジタブルフェスティバル、大学（早稲田・慶應・法政等）から幼稚園（都筑が丘）までと広範です。

今回、最も遠方からの依頼となった石垣島で講演してきました。八重山保健所（崎山八郎所長）が石垣島在住の全高校生に「タバコの害」を伝えるべく企画したものです。10月22日八重山商工高校（424名参加）、23日は八重山高校（780名参加）のそれぞれ全校生徒に体育館で巨大スクリーンを用いて講演しました。講演で伝えたいことを以下にまとめます。

- ① 癌と血管障害（心筋梗塞・脳血管障害など）を予防するために最も注意すべきことは、空気の安全にこだわること（PM2.5・タバコ煙を避ける）
- ② タバコ1本喫煙で14分寿命が短縮
- ③ PM2.5（微小粒子状物質で、タバコ煙に大量に含まれる）の許容濃度は $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下が適正、 $70\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以上で健康被害が生じ、 $250\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以上で著しく死亡率が上昇、喫煙可能な飲食店でPM2.5は $700\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、自動車内で喫煙すると $2000\mu\text{g}/\text{m}^3$ と危険。
- ④ 30分程度の軽微な受動喫煙でも血管が障害され、完全禁煙飲食店以外に外食に行くと心筋梗塞死するリスクが1.4倍高い。
- ⑤ 受動喫煙（タバコの煙を吸い込まれること）と同様、三次喫煙（そこにタバコ煙がなくなった後も衣類や家具に付着したタバコ煙の残留成分）がDNAを損傷させる。三次喫煙はタバコ煙が無くなつても数ヶ月持続することがある。

以上は、ほんの一部の紹介です。

興味をお持ちになった方、講演依頼は当院耳鼻咽喉科へお問い合わせください。



北部X'masイベント

イルミネーション点灯式をおこないました

当院では毎年12月上旬から、1F正面口付近にてイルミネーションを実施しております。今年も12月8日に院内の子供たちを招待し、点灯式をおこないました。

写真のクリスマスツリー以外にも、毎年当院の中央監視室職員が制作している、趣向を凝らした雪だるまの人形も人気を呼んでおります。

来年度も実施予定ですので、当院にお越しの際には是非ご覧になってください。



キャンドルサービスを実施しました

平成26年12月19日（金）、昭和大学医学部附属看護専門学校の学生たちによるキャンドルサービスが行われました。このイベントは昨年から始まり、今年で2回目となりました。

今年は33名の学生が2グループに分かれて、西棟産科病棟と小児病棟である4B病棟、西2階病棟と緩和ケア病棟をそれぞれ訪れました。鈴の音とともに“あわてんぼうのサンタクロース”や“赤鼻のトナカイ”的歌で、入院中の患者さんにもクリスマスの雰囲気を味わっていただきました。



ロビーコンサートを開催しました

当院では毎月1回、1F会計前にてロビーコンサートを実施しております。

11月は北部病院の麻酔科医師 小口理英と昭和大学江東豊洲病院の小児科医師 田中大介による、“初冬に聴く 心と身体にやさしい リラックスミュージック”をテーマにしたサックス・ピアノ・歌のコンサートでした。『ふるさと』などなじみ深い曲が演奏され、美しい歌声と音色が響き渡りました

12月には”音の輪合唱団”によるコンサートが行われました。中学生から大学生までの14名の合唱による『ジングルベル』などのクリスマスソングによって、院内はクリスマスらしい明るい雰囲気に包まれました。



11月のコンサートの様子



12月のコンサートの様子

【次回開催】平成27年1月23日（金）19:00～

詩吟コンサート

吟士：日本詩吟学院・師範 馬場 耀岳

患者さんへのお知らせ

聴覚障害者の公開講座を開催します

当院では平成 24 年度より、聴覚障害を持った方でも参加できる講演会を、都筑区医師会と都筑区役所にご協力いただき開催しております。今年度も以下の内容で開催いたします。一般の方も参加可能ですので、皆様奮ってご参加ください。

●日時：平成 27 年 1 月 24 日（土）13 時～15 時 30 分

●場所：昭和大学横浜市北部病院 西棟 4 階講堂

●受講料：無料

●予約：不要です。当日、直接会場へお越しください。

第 1 講演：当院で行っている骨粗しょう症の治療について（仮）

　　北部病院 整形外科 助教 大下 優介 先生

第 2 講演：内科系の分野について

　　未定（都筑区医師会にご協力いただく予定）



当日は、手話通訳／音声通訳、要約筆記、磁気ループをご用意しております。

昨年の講演会の様子

携帯電話の使用可能エリアが変わります

平成 27 年 1 月より、病院内での携帯電話使用可能エリアを変更いたします。

電波環境協議会が策定した「医療機関における携帯電話等の使用に関する指針」に則って、携帯電話を使用する際は医療機器から“1m以上”離してお使いくださいますようお願ひいたします。このため、外来の中待合での使用も全面禁止とさせていただきます。また、使用可能エリアでも消音モードにするなど他の患者さんのご迷惑にならないようご配慮くださいますようお願ひいたします。

<携帯電話 通話可能エリア>

レストラン、個室、病棟デイルーム（窓側座席のみ）、時間外出入口、患者用エレベーターホール、中央棟 3 階患者待合エリア、中央棟 2 階西棟連絡通路口、中央棟地下 1 階、人間ドック、公衆電話エリア

<携帯電話 通話以外可能エリア>

4 床室、5 床室、中央棟 2 階（外来中待合を除く）、中央棟 1 階（外来中待合を除く）、西棟産科外来

編集後記



新年あけましておめでとう御座います。

冷たい北風が厳しい季節となりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。世間では、インフルエンザや感染性胃腸炎が猛威を振るっていますが、日頃のうがい・手洗いの励行が予防となります。しっかり栄養をとり、適度の運動をして体調を整え、この寒さを乗り切りましょう。

さて、今年の干支は「未年」と言うことでは羊は群れをなして行動するため家族の安泰や平和をもたらす縁起物とされています。世界では、色々なところで、紛争、デモなどがありますが、世界の平和と、今年も皆様にとって健やかで、より良い一年でありますことをお祈り申し上げます。

広報委員会 委員 東野 由美子

北部病院だより 第 87 号

平成 27 年 1 月 1 日発行

発行責任者 世良田 和幸（昭和大学横浜市北部病院長）

編集責任者 北見 明彦（広報委員会 委員長）

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL : <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。